

宗玄 清也

射水市立大島小学校

(社会人4年目)

【取材日：2026.1.6】

現在のお仕事について教えてください

3学年クラスの担任として、授業から生活指導まで幅広く担当しています。自分の行動の指針である「何事もポジティブに捉える」ことを、子どもたちにも伝え続けています。

富山大学で学ぶきっかけ

小学生のときからドッジボールのスポーツ少年団に入っていました。父がコーチをしていて、中学生になってから自分も手伝いで子どもたちに教えていました。保護者の方から、「学校の先生が向いているんじゃない？」と言ってもらえることが多く、自分自身、子どもに教えるのが楽しいと感じていたため、教員という選択肢が少し視野に入るようになりました。大学進学時は明確に「教員になろう」と決めていたわけではありませんが、富山大学人間発達科学部発達教育学科へ進学しました。

小学校の先生との思い出

小学6年生の時、ドッジボールで北信越大会に出場しました。その時の担任の先生が、新潟での試合会場へ駆けつけてくれたことを今でも鮮明に覚えています。そうした小学校の先生との思い出もあり、小学校の教員になりたいと考え始めました。

子どもと関わる機会が気持ちが固まる

富山大学で行われていたスマイルフェスティバル実行委員として、親子向けイベント企画の活動に参加していました。そうしたスマフェスや教育実習を通じて、子どもと関わり、教員になりたいという気持ちが高まってきたように思います。

小学校教員のやりがい

初任で射水市立大島小学校に着任しました。教育実習では授業のことだけ考えていましたが、生徒指導や行事の準備など、戸惑うことが多くありました。このような時には、先輩方に恥ずかしがらずに相談して、助言をもらいつつひとつひとつつとんでいきました。子どもはひとりひとり皆違って、個性があります。毎日同じことの繰り返しということはまずありません。子どもたちが日々成長する姿を間近で見ることができ、とても充実しています。自分に合っている仕事だと感じ、教員になってよかったと思っています。

高校生へのメッセージ

「教員もいいな」と選択肢のひとつにあるなら教育学部に進学してみるのもよいと思います。実際に学ぶことで、僕のように教員になりたい気持ちが固まる人もいでしょうし、学びの中で幅広い可能性が見えてくる分野だと思います。

Profile

富山県出身。富山県立高岡南高等学校出身。2018年、富山大学人間発達科学部発達教育学科に入学。在学中は大学のサークル活動や学業も精力的に取り組み、プライベートでは小学校から続けているドッジボールの指導に励んだ。2022年4月に射水市立大島小学校の教諭として着任。現在は3学年の学年副主任として楽しいクラスづくりに励む傍ら、ドッジボールの指導を続けている。